



FOOTBALL CLUB
MITO HOLLYHOCK

ソーラーウィーク大賞2025

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック

地域課題の解決に向けた取り組み「農事業-GRASS ROOTS FARM-」

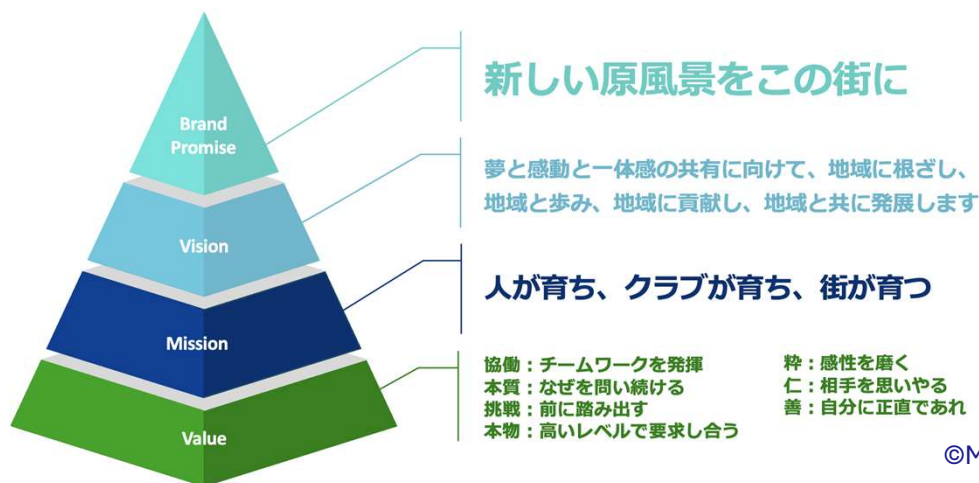


クラブ紹介

水戸ホーリーホックは、2000年にJ2リーグに昇格して以来、同リーグ最長在籍となる26シーズン目を迎えている茨城のプロサッカークラブです。責任企業としての親会社が存在しないクラブだからこそ、地域に根差した取り組みを大切にしており、ファンサポーターだけではなく、多くの地域企業の皆様に支えられています。特に、教育や 農業・再エネによる地域の課題の解決にむけて様々な活動を行っており、地域にとって不可欠な存在になれるよう日々尽力しております。

公募申請では、弊社の農事業GRASS ROOTS FARMの中で、社会課題と地域課題の解決に向けて取り組んでいる耕作放棄地を活用した「GXプロジェクト」をご紹介します。

クラブ理念



新しい原風景をこの街に

夢と感動と一体感の共有に向けて、地域に根ざし、地域と歩み、地域に貢献し、地域と共に発展します

人が育ち、クラブが育ち、街が育つ

協働：チームワークを発揮
本質：なぜを問い続ける
挑戦：前に踏み出す
本物：高いレベルで要求し合う

粋：感性を磨く
仁：相手を思いやる
善：自分に正直であれ

©MITO HOLLYHOCK

地域課題の解決に向けて

茨城県は北海道に次ぐ農業生産量を誇る一方、耕作放棄地の増加や農業従事者の高齢化といった問題を抱えています。県内の耕作放棄地面積は、農地総面積の約5%（2022年統計）に相当し、農業従事者の平均年齢は67歳で、60歳以上が全体の約70%を占めています。この地域課題の解決に向けて、3つのコンセプトを軸に2021年より農事業「GRASS ROOTS FARM(GRF)」をスタートさせました。

GRFの3つのコンセプト

- 1. PRODUCTSを作る：**
私たち自身で、畑を持ち、土を触り、土づくりから栽培、収穫、（時には加工）、販売までを行う
- 2. PRODUCTSを支援する：**
農業で地域を盛り上げようとしている方々を、広報や販路を増やすという側面から支援していく
- 3. JAと共に地域を発展させる：**
農業から地域を元気に発展させていく

まずホームタウン（城里町）で圃場を借り、選手やスタッフ、ファンサポーターらの力も借りながら農業をスタート。子供達にも田植え＆収穫体験を提供しながら、様々な作物に挑戦。
またホーム試合では、収穫した生鮮野菜や地域の特産品を集めた「GRF道の駅ブース」を出展。さらに茨城の野菜を詰めたサブスクサービス「GRF BOX」も展開しています。



新規事業「GXプロジェクト」



Jリーグが目指す姿：

Jリーグは2021年に環境省と連携協定を締結し、昨今の地球温暖化の問題に向けて積極的に気候アクションに取り組んでいます。2025年には気候アクションを含めたサステナビリティ領域の活動強化を目的として、日本財団とも連携協定を締結し、環境負荷の削減に向けた取り組みの可視化を進めていくこととなります。この流れに準じて各Jリーグクラブも、自分たちができる気候アクションに取り組んでいくことで、2030年にはCO2排出量初年度対比50%削減を目指していくこととなります。

水戸ホーリーホックの目指す姿：

クラブ創立30周年を迎えた2024年に、クラブの新規事業「GX（グリーントランスフォーメーション）プロジェクト」として、これまでの農事業（GRF）で培ったノウハウを活用する「ソーラーシェアリング」に挑戦することを発表し、本年6月には運開に至りました。GXプロジェクトは、地域の自治体を含む多くの地域に密着する事業者や、地域交流協力の皆様で作り上げ育て行く事業ですので、クラブの重要事業の一つとして取り組んでまいります。農業とソーラーシェアリング、食とエネルギーの地産地消を行なっていくことで地域循環共生圏づくりに寄与しながら地域課題を解決し、持続可能な未来を実現していきたいと考えています。

「GRFソーラーシェアリング発電所」について

所有者：株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック

所在地：茨城県東茨城郡城里町磯野 248

事業内容：ソーラーシェアリング

（農業と太陽光発電の両立と地産地消）

耕作地：将来的に大豆などの耕作を目指す

対象農地：約2,000㎡（耕作放棄地を活用）

発電量：年間9万kWh（見込）

※供給先2施設の3割程度

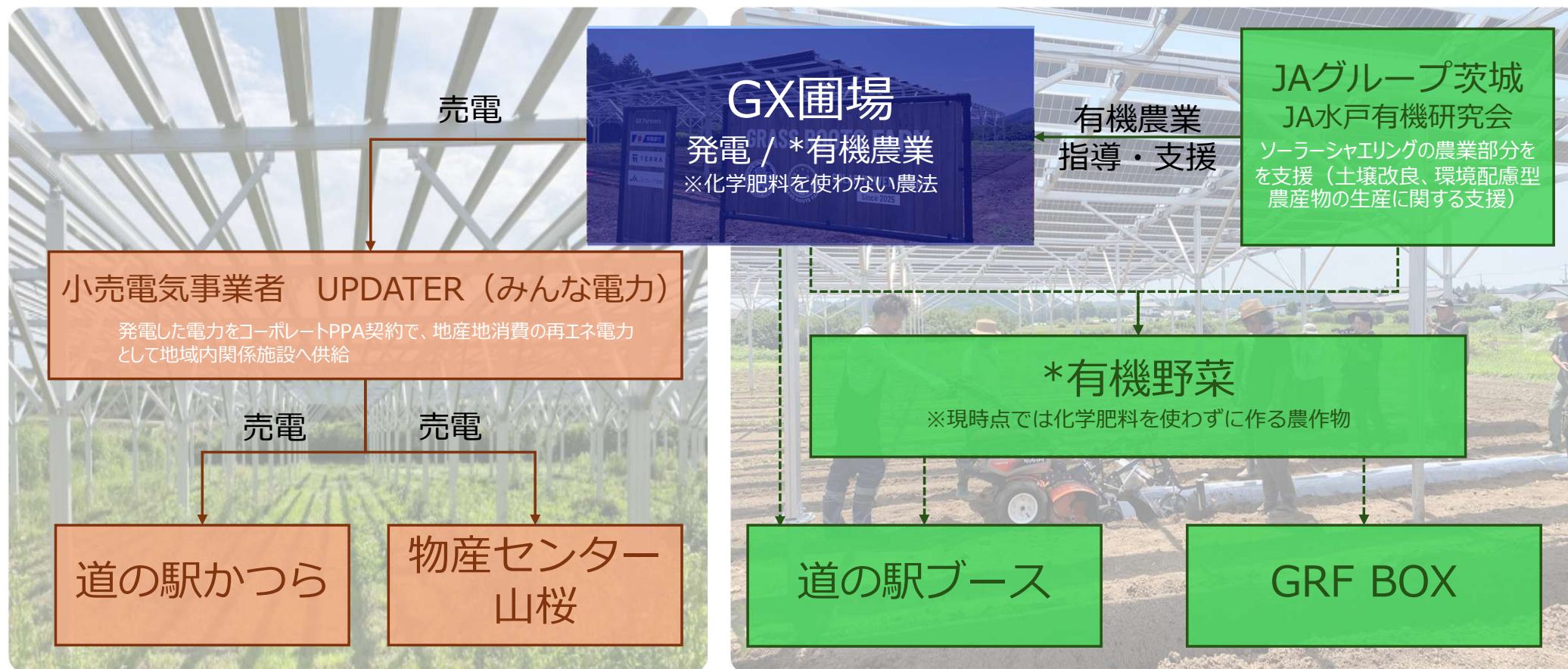
供給先：「道の駅かつら」「物産センター山桜」

（いずれも城里町内）

備考：電力の不足分は「みんな電力」より再生可能エネルギー由来の電力を供給します

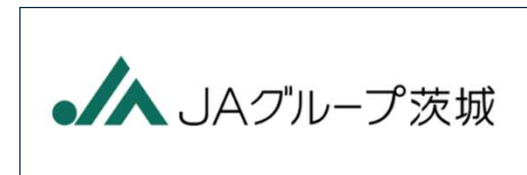


水戸ホーリーホックが目指す地域循環共生圏（電気と農作物の地産地消）



GX PARTNER

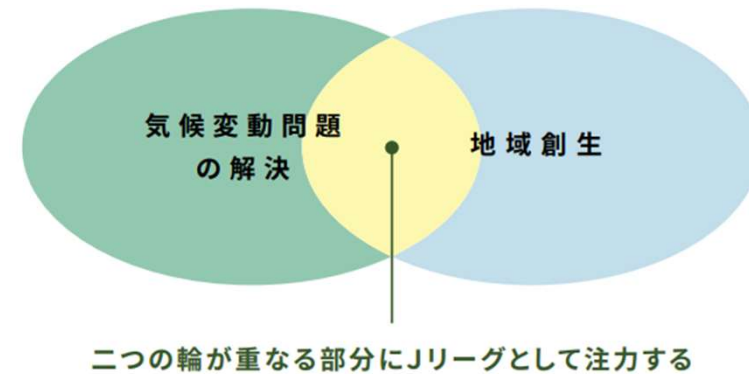
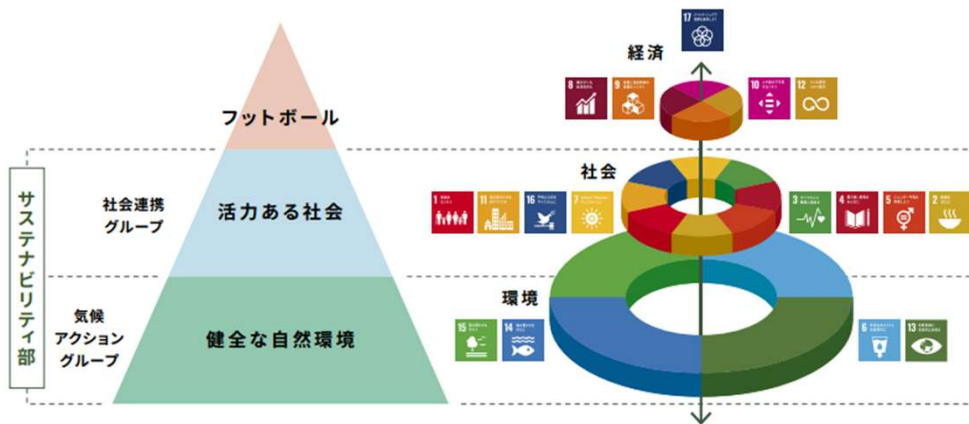
クラブの取り組みに共感し、
ご支援いただくパートナー企業



「Jリーグ気候アクション戦略」に準じた取り組みの強化

▶Jリーグの気候アクション戦略

- ・ 気候変動に歯止めをかけるアクション・ムーブメントを Jリーグから広げていくこと
- ・ Jリーグが、クラブと地域の取り組みを支援すること（地域と協力して、好事例をつくり横展開していくこと）



未来の地球に良いパスを

水戸ホーリーホックは地域からGXプロジェクト（再エネ&農業）で貢献

水戸ホーリーホックはJリーグクラブとして、積極的に気候アクションに取り組んでいくことで、1つのロールモデルクラブを目指し、それが日本のサッカー界、スポーツ界を通じて全国に広がっていくことを目指しています



地域を巻き込んだソーラーシェアリング



道の駅やGRF BOXを通じた地域特産物の新しい販路作り



農業体験の提供や気候アクションクイズで環境教育



地元の小学5年生から始まったストーリー

1 通のメール

水戸ホーリーホックの気候アクションは、2021年に届いたある1通のメールから始まりました。茨城県守谷市に住む田島修太くん（当時小学5年生）が、学校の研究テーマとして、Jリーグクラブがどれくらい環境問題に取り組んでいるかを調査するために、すべてのJリーグクラブにメールを送り、それを受け取った水戸ホーリーホックのスタッフが返信し、そこから彼を中心としたプロジェクトが動き出した。

大豆ミートバーガー

地球温暖化を止めるためには、具体的なアクションをしなければならない、そう考えた田島くん。人間によって過剰に飼育されている牛のゲップに含まれているメタンガスが温室効果を高めていることを知り、牛肉に変わる大豆から作られる代用肉「大豆ミート」に着眼し、大豆ミートバーガーを水戸ホーリーホックのホーム試合でファンサポーターの方々に販売することで、1人1人の意識を変えられればと考え、選手と試行錯誤を繰り返しました。

ホーム試合での販売

地元の飲食店の協力もあり、水戸ホーリーホックのホーム試合にて、大豆ミートバーガー200個の販売が実現しました。田島くんも店頭に立ち、チラシを配布しながら販促を行うなど精力的に活動し、多くのファンサポーターの方々が長蛇の列を作った結果、全てを完売することができました。

明治安田 地元の元気賞

この取り組みが2022年Jリーグシャレン！アウォーズにて、地域の声に耳を傾け、クラブをあげてファンサポーターも巻き込んで気候アクションに繋がったことが評価され、「明治安田 地元の元気賞」に選出されることとなりました。クラブはこの経験をきっかけにGXプロジェクトを立ち上げ、プロジェクト発表イベントでは気候問題をテーマにしたパネルディスカッションも企画しましたが、田島くんもパネラーとして参加するなど、今も関わりを続けています。



GXプロジェクトの今後の展望

- 緑肥となるクロタリヤやソルゴー、ひまわりを植え、耕作放棄地の土壌改良を進める
- 化学肥料は使わず、堆肥なども活用していき、将来的には有機JAS認定の取得を目指す
- ホーム試合におけるGRF道の駅で、農産物販売／将来的にはそれから作った加工品の展開
- 現在展開しているサブスクリプションサービスである「GRF BOX」の改善として、茨城産の有機野菜を詰め込んだオーガニックBOX化を目指す
- このプロジェクトの主旨に賛同し、支援して下さるGXパートナー企業を広く集めていく
- Jリーグクラブが取り組む地域循環共生圏のロールモデルを目指し、サッカー界・スポーツ界を通じて広めていく
- 未来を担う子どもたちに向けて、「サステナ教育」として広く伝えていく